



勢語臨断

坤



盤  
詔  
怡  
新

坤









何と云ふも又ハ此ノ語ニモハ新ニモハシラセ  
リ之ノハモハシラセシムルニシテハモハシラセ  
ル。

源中書。

何と云ふも又ハ此ノ語ニモハ新ニモハシラセ  
ル。

○何と云ふも又ハ此ノ語ニモハ新ニモハシラセ  
ル。

何と云ふも又ハ此ノ語ニモハ新ニモハシラセ  
ル。

何と云ふも又ハ此ノ語ニモハ新ニモハシラセ  
ル。

何と云ふも又ハ此ノ語ニモハ新ニモハシラセ  
ル。











あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて

あはれおぼやかしき心なりて







あつ

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

○  
#  
五

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

○  
#  
六

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

○  
#  
六

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて

あつて あつて 神はあつて





信ふおののこり業のちかきつゝふふのほそたし  
こはい信布とてふ方集一は部被おのつとてなす  
おのし一絲のほはる年ふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ

おのしは宿おのつとてふ一は部被信のちかき凡款  
不在被信の信法集書古今ふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ

おのしおのこりふふふふふふふふふふふ

古今類下

おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ  
おのしおのこりふふふふふふふふふふふ

おのしおのこりふふふふふふふふふふふ





後撰集のむかしの中にも昔のうらたけのうらたけのうらたけ  
とていふたひは昔のうらたけのうらたけのうらたけ

二首

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ  
あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ  
あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

後撰集のむかしの中にも昔のうらたけのうらたけのうらたけ

言以冷水瀦而令得醒悟

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ

あつちのうらたけのうらたけのうらたけのうらたけ





よめること言はくぬの神のまゝに  
あつたよりのまゝに  
あつたよりのまゝに

○いふありまゝに  
あつたよりのまゝに

いふはさすまゝのまゝに

<sup>品</sup>いふはさすまゝのまゝに

いふはさすまゝのまゝに  
あつたよりのまゝに

いふはさすまゝのまゝに  
あつたよりのまゝに

<sup>た</sup>梅はさすまゝのまゝに

<sup>仲</sup>梅はさすまゝのまゝに

<sup>梅</sup>梅はさすまゝのまゝに

梅はさすまゝのまゝに

梅はさすまゝのまゝに

梅はさすまゝのまゝに

梅はさすまゝのまゝに

梅はさすまゝのまゝに

○梅

梅はさすまゝのまゝに

梅はさすまゝのまゝに

諸人高し諸人高し... 大正朝細秋

八十二

今日より...

今日より... 諸人の...

今日より... 諸人の...





しるの如くはるかにあはれむるをいふは、  
一

○  
いふは、  
いふは、

月鬼第十七云、  
色仍透山、  
日鬼第十七云、  
是仍透山、

○  
いふは、  
いふは、

いふは、

世に、  
世に、

史記、  
史記、

弗安之、  
之方史曰、  
而偏朱、  
治ら又、  
之命王、

○  
子之、  
下也、  
乞し、

弟、  
弟、

弟、  
弟、

何しん候

○ 上りいぢり候へりしに、  
世の化者の初めり。

いふそんちをては、  
もふねをさう、  
いふ人ちをては、  
後の化者の初めり。

○ 上りいぢり候へりしに、

いふそんちをては、  
もふねをさう、  
いふ人ちをては、  
後の化者の初めり。

○ 上りいぢり候へりしに、  
世の化者の初めり。

いふそんちをては、  
もふねをさう、  
いふ人ちをては、  
後の化者の初めり。

といふ所のありし。世の集ふも其部を辨之。三國云

江浦系至久毛一云 磐のうらうらと。此處より似るは

くを發といひなり。

○そりしくきり舞し。さかるとくむさうと。きりさく  
てあよさやうらねと。さうさうの女乃ちや。ふまの  
くちさうて。えねの女よはあそびな。

昔年の土まらへ。あまふらんし。さうさうの女  
さやゆりさ。さうさうのさうさうの女  
あふあつと。あまあまのさうさうの女  
と。あまあつと。あまあまのさうさうの女  
さやゆりさ。さうさうのさうさうの女

いしすんいしす

○いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。  
いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。

○いしすんいしす。いしすんいしす。いしすんいしす。







Handwritten text in cursive script, starting with a red circle and a vertical line. The text is written on the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle. The text is written on the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, starting with a red vertical line. The text is written on the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle. The text is written on the left page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle. The text is written on the left page of the manuscript.





○ *Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

○ *Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

○ *Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

○ *Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*

*Handwritten cursive text*





之指

此の書は、その中に、<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

○<sup>新編</sup>新編の書名を記す。

河村はほむるふようてふと。ゆらうらうらふと。河村はほむる  
指を大御島と云ふ。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
懐胎の咽あやふと。Pまふ。なほ世をゆらゆらあやうと。  
品 <sup>大</sup>むく。をこそ。げのうらふと。あやうらふと。あやうらふと。  
ゆらうらうらふと。さる部。さる部。さる部。さる部。さる部。さる部。  
○ゆらうらうらふと。あやうらふと。あやうらふと。あやうらふと。あやうらふと。あやうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。

**乙未年**のゆらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
てゆらうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。  
こゆらうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。

海撰報ゆらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
てゆらうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。

海撰報下  
乙未年 節一

ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。

あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。あやうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。  
ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。ゆらうらうらふと。

昔よりあつた世ならふかきとて又遷枯風祥ふ歌樂極与  
哀情多しと云ふことと此中北母ふとてはあつた世とを規  
まらふ北はあつた世に推し初めふとて北はあつた世とて  
昔よりあつた世とて

○とてあつた世とて

世多と昔とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて  
くもあつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて  
あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

六十七

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

○あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

○あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて

あつた世とてあつた世とてあつた世とてあつた世とて







為之云能世孫終... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

六九

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...

... 江戸集... 江戸集... 江戸集...



Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Small handwritten mark or character.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Small handwritten mark or character.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Small handwritten mark or character.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Small handwritten mark or character.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Small handwritten mark or character.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.

Handwritten text in cursive script, starting with a red circle.



17 17

17 17

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

○ ... ..

17 17

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

○ ... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

○ ... ..

... ..

... ..







一、新嘗祭の儀  
 一、歳旦の儀  
 一、初詣の儀  
 一、節分の儀  
 一、彼岸の儀  
 一、夏越めの儀  
 一、土俗の儀  
 一、土俗の儀

七十七  
 〇〇〇

一、新嘗祭の儀  
 一、歳旦の儀  
 一、初詣の儀  
 一、節分の儀  
 一、彼岸の儀  
 一、夏越めの儀  
 一、土俗の儀  
 一、土俗の儀

尾張の地... 延喜式... 尾張...

行大興行神社... 尾張...

一、新嘗祭の儀  
 一、歳旦の儀  
 一、初詣の儀  
 一、節分の儀  
 一、彼岸の儀  
 一、夏越めの儀  
 一、土俗の儀  
 一、土俗の儀

一、新嘗祭の儀  
 一、歳旦の儀  
 一、初詣の儀  
 一、節分の儀  
 一、彼岸の儀  
 一、夏越めの儀  
 一、土俗の儀  
 一、土俗の儀

一、新嘗祭の儀  
 一、歳旦の儀  
 一、初詣の儀  
 一、節分の儀  
 一、彼岸の儀  
 一、夏越めの儀  
 一、土俗の儀  
 一、土俗の儀

のきくあまのこゝろにまはるる  
せいのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる

あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる

あまのこゝろにまはるる

あまのこゝろにまはるる

あまのこゝろにまはるる

あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる  
あまのこゝろにまはるる

あまのこゝろにまはるる



おのの海なみさし 海をうて 女中 遊子 女中

大いなる海に 舟をたのむ 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

七十三

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

百五十二

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

七十四

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

百五十三

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中

七十五

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中

舟の 遊子 女中 舟の 遊子 女中





○氏神ありて千石あり

美州ふくまの事跡ふき口を初信よりり。古氏の宗  
紀すとの事跡ふき口を初信よりり。因縁なきは  
名朝嘉祿三年一書他信よりり。物道しへ信  
た信いふ事跡ふき口を初信よりり。母にふか  
しへ初信よりり。父は父信よりり。母にふか  
初三年二月し年別別。古事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
ある今い二月上の年の日。古事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
信よりり。父は父信よりり。母にふか  
二月すうり己巳日。古事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
牛車。初信よりり。父は父信よりり。母にふか

古事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
段々事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
無二條信。初信よりり。父は父信よりり。母にふか  
父との二代事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
年と月よりり。父は父信よりり。母にふか  
信よりり。父は父信よりり。母にふか  
この事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。

○三代事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
古事跡ふき口を初信よりり。初信よりり。  
よりり。父は父信よりり。母にふか  
よりり。父は父信よりり。母にふか

命を降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる  
酒よりうらぶるにたれどいふ事ありては年一に  
日暮りしておぼろけたりとて流る流るにたれどいふ事ありて  
いとくみくおぼろけたりとて流る流るにたれどいふ事ありて  
のほろろとておぼろけたりとて流る流るにたれどいふ事ありて  
まこと東海ののちとていふ事ありては年一にうらぶる  
ゆきてまこと東海ののちとていふ事ありては年一にうらぶる

<sup>古事記</sup>  
用事

用事古事記の事とていふ事ありては年一にうらぶる

少翁の事とていふ事ありては年一にうらぶる  
いふ事ありては年一にうらぶる  
又少翁の事とていふ事ありては年一にうらぶる  
いふ事ありては年一にうらぶる

命に神代此事とていふ事ありては年一にうらぶる

天皇命天皇命二神信長天皇御年一尊御降之時

天皇御神天兒命天皇命白惟南二神又同降

命の降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる

命の降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる

命の降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる

命の降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる

命の降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる

命の降るにたれどいふ事ありては年一にうらぶる

一



下向小畑の地を河内とて祀者北條とてす。古本  
相傳云む。一とある。一とある。一とある。一とある。  
〇〇〇〇  
〇〇〇〇

又徳義海系二云。嘉祥二年。秋。子祖甲申。  
のふか。一とある。一とある。一とある。一とある。  
て。一とある。一とある。一とある。一とある。

〇〇〇〇  
〇〇〇〇  
又徳義海系二云。嘉祥二年。秋。子祖甲申。  
有。一とある。一とある。一とある。一とある。

〇〇〇〇

三代。嘉祥二年。一とある。一とある。一とある。一とある。  
下。一とある。一とある。一とある。一とある。  
相。一とある。一とある。一とある。一とある。  
而。一とある。一とある。一とある。一とある。

〇〇〇〇

西。一とある。一とある。一とある。一とある。  
又。一とある。一とある。一とある。一とある。  
行。一とある。一とある。一とある。一とある。  
十八。一とある。一とある。一とある。一とある。  
之。一とある。一とある。一とある。一とある。  
右。一とある。一とある。一とある。一とある。  
去。一とある。一とある。一とある。一とある。

信濃補續正ノ海澄原

○くささげとのきやゆりきり

たわわの云々原太綱之幸願ふおんしきり時重臣の  
ち中々原亭子院の法賢法くゆりしりやとてはる  
るすんせむしこさささきまおむとささささ  
ふささささささささささささささささ  
持世と弟也  
物持の三首下  
ほつゆりた  
こささ

○ささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささ

持世と弟也さささささささささささ  
たのさささささささささささささ  
さささささささささささささささ  
は島桐端男官親元年三月廿五日  
去るささささささささささささ  
ささささささささささささささ  
ささささささささささささささ  
ささささささささささささささ

○さささささささささささささささ  
ささささささささささささささ  
ささささささささささささささ  
ささささささささささささささ  
ささささささささささささささ  
ささささささささささささささ



信長下 常子

二 北のふらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

三 北のふらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ありとゆわうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ふらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

今日の日半を佛の涅槃をすまふとまま北のふらうてきふゆわとまま

信長六市待世多由花林下復州冥林莊其中

入身日禪寂然一釋於時須使被涅槃又涅槃已

其巢花林东南二雙合為一樹南北二雙合為一樹西

室林蓋宿也又志願裂也ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

もとらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

みま世多由入被涅槃日半三無法を畏悲哀泣

候名辨之救事を投也兼悲哀泣法書ありてゆわとまま

於前也界之也界法をゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

の北ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

○ 北のふらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

北のふらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ふらうてきふゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

ゆわとまま北のふらうてきふゆわとまま

子...の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...





かろしー

○お母さんこの後をさすろしーのさるはらわしー  
れすのさるふまをさるしーのさるのさるさるしー  
さるしーをさるさるしーのさるさるしー

細細成成痼痼泉泉夜夜音音音音のさるさるしー

○みみしとろしーのさるしーのさるしーのさるしー  
しーのさるしーのさるしーのさるしー

○<sup>上り</sup>上りしーのさるしーのさるしーのさるしー  
しーのさるしーのさるしーのさるしー

かろしー

細細仙仙居居ふふ不不定定ととさるしーのさるしーのさるしー  
云云右右右右梅梅江江所所置置ちちるる江江相相付付たたととさるしーのさるしーのさるしー

○あつしとろしーのさるしーのさるしーのさるしー  
さるしー

細細成成痼痼泉泉夜夜音音音音のさるしーのさるしーのさるしー  
細細成成痼痼泉泉夜夜音音音音のさるしーのさるしーのさるしー  
細細成成痼痼泉泉夜夜音音音音のさるしーのさるしーのさるしー  
細細成成痼痼泉泉夜夜音音音音のさるしーのさるしーのさるしー



いと世をよそらひて色をぬきておのづからいふことあり  
あることハ世をよそらひて色をぬきておのづからいふことあり  
かよふこと

七十九  
む

うらぬちりふみこころもよし後つるま

三代善徳天皇二十八年乙未公孫中八年一丁卯丁卯年卯  
皇子久勢為親王二年甲寅文子孫後古宗  
師位三位在在東朝後弘安之也弟甲子一云乙亥一  
年甲子古乙巳乙未皇孫清隆及殺酒高為親王  
左大臣甲乙之集一云皇親親王年法王之下親王事  
宣德宗舉命親王之議位三位弘安後御在東朝後  
弘安候年下把持親王能通ら出親王于時年八  
甲子古乙巳乙未皇孫清隆及殺酒高為親王  
甲子一云乙巳乙未皇孫清隆及殺酒高為親王  
皇親親王年法王之下親王事  
宣德宗舉命親王之議位三位弘安後御在東朝後  
弘安候年下把持親王能通ら出親王于時年八  
甲子古乙巳乙未皇孫清隆及殺酒高為親王  
甲子一云乙巳乙未皇孫清隆及殺酒高為親王

○ 弘安元年乙未

三ヶ東七ヶ東中七ヶ東

○ 弘安元年乙未

弘安元年乙未

一丁卯

弘安元年乙未

仙居此竹の地なり。山海經云。互麻崙之北。有岳之山。尋  
竹生焉。傳身竹。大竹名。長十尋。博物志。異草。草於云止  
些山多竹。長十伍。風含之實。文選。洛京陽七令云。尋  
竹。諫。蓋。蔭。其。疑。玉。篇。云。尋。寺林切。竹。長。十丈。生海畔。  
予。一。尋。後。以。尋。雲。書。生。福。海。云。葉。一。竹。間。結。刺。六  
尺。曰。尋。又。云。星。舍。人。曰。人。石。向。彼。換。長。綠。成。換。歸。ヲ  
予。子。鑿。乃。尋。世。國。の。方。の。信。也。世。説。小。引。一。尋。云。一。尋。  
尋。亦。云。尋。一。尋。竹。を。舉。て。王。林。の。湯。液。中。に。の。ゆ。け  
時。を。の。こ。す。く。世。女。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。  
徳。如。女。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。こ。ん。  
予。一。

半

○一尋といふは一尋の竹の人の竹の子一尋といふ事なり。

○竹の仲嗣々也。此竹は一尋の竹の事なり。  
二一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。

○半  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。

○一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。  
一尋の竹の事なり。一尋の竹は一尋の竹の事なり。







わしよも(きり)はるれおのちあをちひるいん  
さういん(あ)事(は)ふ(山)名(は)盡(あ)来(ふ)頭(ま)り(は)ふ(惠)宗(烟)  
五(佛)房(坐)我(備)相(烟)庭(歎)呼(扁)舟(飯)志(故)云(是)  
母(せ)い(す)う(こ)れ(を)引(る)は(海)と(ふ)お(船)す(う)

○あんよ(き)る(い)み(れ)ら(あ)り(さ)き(う)あ(ら)ふ

これ(う)保(き)め(り)る(う)あ(ら)ふ(年)の(日)記(する)や(う)

○あ(う)お(ら)な(あ)く(あ)ら(う)き(う)き(う)ら(み)し(う)平

よ(う)の(中)ふ(指)な(う)し(う)あ(ふ)他(事)の(可)知(め)り(き)う

あ(ふ)し(う)日(中)記(ふ)弟(二)平(文)者(法)の(旨)田(我)田(田)

茶(田)と(旨)之(世)に(出)る(也)あ(ら)う(お)ら(な)あ(ら)ふ

う(う)き(う)し(う)あ(ら)め(の)み(ら)せ(う)あ(ら)め(の)白(く)お(船)す(う)

て(お)き(う)ら(や)は(し)指(ら)う(い)ま(う)道(き)う(い)ん(あ)ら(う)

程(を)好(い)あ(ら)ぬ(平)修(利)ふ(他)事(の)可(知)め(り)る(う)

い(ん)あ(ら)し(う)あ(ら)め(の)い(ん)年(れ)法(あ)ら(う)

○あ(ら)め(の)お(船)れ(う)あ(ら)め(の)あ(ら)め(の)指(ら)う(い)ら(う)

あ(ら)め(の)あ(ら)め(の)あ(ら)め(の)

むしこねきり此みこしりまみこねきり

惟高親王少法弟一母河内后下化釋子石室御

名虎女弟和十一年誕生貞和十一年七月廿五日

信公<sup>等</sup>弟延宗<sup>殿</sup>信向より信成を<sup>て</sup>多<sup>東</sup>の

意日雲と<sup>授</sup>乃<sup>授</sup>母<sup>授</sup>和<sup>授</sup>高<sup>授</sup>より授<sup>授</sup>なる<sup>授</sup>より<sup>授</sup>母<sup>授</sup>の

意日雲<sup>授</sup>より<sup>授</sup>乃<sup>授</sup>母<sup>授</sup>和<sup>授</sup>高<sup>授</sup>より<sup>授</sup>母<sup>授</sup>の

杖の中<sup>授</sup>日<sup>授</sup>少<sup>授</sup>孫<sup>授</sup>高<sup>授</sup>より<sup>授</sup>乃<sup>授</sup>母<sup>授</sup>和<sup>授</sup>高<sup>授</sup>より<sup>授</sup>母<sup>授</sup>の

と

ふさ<sup>乃</sup>のあ<sup>乃</sup>れ<sup>乃</sup>く<sup>乃</sup>し<sup>乃</sup>み<sup>乃</sup>る<sup>乃</sup>ど<sup>乃</sup>し<sup>乃</sup>あ<sup>乃</sup>る<sup>乃</sup>ま<sup>乃</sup>は<sup>乃</sup>り<sup>乃</sup>き<sup>乃</sup>る<sup>乃</sup>年

し<sup>乃</sup>ふ<sup>乃</sup>さ<sup>乃</sup>ら<sup>乃</sup>る<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>花<sup>乃</sup>ら<sup>乃</sup>る<sup>乃</sup>も<sup>乃</sup>の<sup>乃</sup>ま<sup>乃</sup>は<sup>乃</sup>の<sup>乃</sup>ま<sup>乃</sup>は<sup>乃</sup>し<sup>乃</sup>お<sup>乃</sup>を<sup>乃</sup>し<sup>乃</sup>は<sup>乃</sup>

し<sup>乃</sup>き<sup>乃</sup>り<sup>乃</sup>その<sup>乃</sup>村<sup>乃</sup>志<sup>乃</sup>の<sup>乃</sup>う<sup>乃</sup>た<sup>乃</sup>の<sup>乃</sup>う<sup>乃</sup>ま<sup>乃</sup>の<sup>乃</sup>う<sup>乃</sup>ま<sup>乃</sup>り<sup>乃</sup>人<sup>乃</sup>と<sup>乃</sup>つ<sup>乃</sup>て<sup>乃</sup>





其はきく物とてまうぬ観さうう心持とけら人いあうら  
これ今の分とてまうぬ観さうう心持とけら人いあうら  
傍好探集う

西の海に記す

其のつらぬ世はあふりつて世はこころ持とてふ記ハ  
こゝろとけあを物りしめされまうなり古なり絶りかく  
あ毎月のあやまほの位とふあをえつてつらぬ  
むうと物りひやうてまうぬ観さうう心持とけら人いあうら  
ろあうとまうう心持とけら人いあうら  
うは物乃ら物さまうう心持とけら人いあうら  
しあたらう心持とけら人いあうら  
のほともまうぬ観さうう心持とけら人いあうら

のほともまうぬ観さうう心持とけら人いあうら  
るあうとまうう心持とけら人いあうら

あ世へうら物乃ら物さまうう心持とけら人いあうら  
又あう人のまうら

あひく世とあやまほの位とふあをえつてつらぬ  
まうぬ観さうう心持とけら人いあうら

あひく世とあやまほの位とふあをえつてつらぬ  
まうぬ観さうう心持とけら人いあうら

あひく世とあやまほの位とふあをえつてつらぬ  
まうぬ観さうう心持とけら人いあうら



橋をちりちりせし  
ちりちりせし  
まてももつら  
はなれはなれ  
まにまに  
まにまに  
まにまに

○みこころをよまてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
あはれはなれはなれはなれはなれはなれはなれはなれはなれ  
推してハシ給はるはなれはなれはなれはなれはなれはなれ  
と泥酔しなれはなれはなれはなれはなれはなれはなれはなれ  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて

まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて

まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて

○まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて

まへにまをて

○まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて

まへにまをて

まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて  
まへにまをてまへにまをてまへにまをてまへにまをて





の御とらふれ... ころあひる

○... けいせいの... けいせいの... けいせいの

... けいせいの... けいせいの... けいせいの

三代実徳... 守彈... 惟喬... 寢疾... 為

... 守彈... 惟喬... 寢疾... 為

... 守彈... 惟喬... 寢疾... 為

... 守彈... 惟喬... 寢疾... 為

... 守彈... 惟喬... 寢疾... 為

... 守彈... 惟喬... 寢疾... 為

の友... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後

○... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後

... 彼... 勅書... 子... あり... 後









有る様に見せたるはつらむ  
 由もみよしつらむはつらむ  
 めいさむはつらむはつらむ  
 海はつらむはつらむはつらむ  
 なすはつらむはつらむはつらむ  
 打はつらむはつらむはつらむ  
 ことつらむはつらむはつらむ  
 物あつらむはつらむはつらむ

〇 浮くつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ

つらむはつらむはつらむ

〇 東の舟にのりつらむはつらむ  
 むつらむはつらむはつらむはつらむ  
 ありつらむはつらむはつらむはつらむ

つらむはつらむはつらむはつらむ

〇 みる人なるはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ

〇 みる人なるはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ  
 つらむはつらむはつらむはつらむ









るはくろくくせいにばあちりたけろばあ  
あくらくろくせいのばあちりたけろばあ  
ちりたけろくせいのばあちりたけろばあ  
ちりたけろくせいのばあちりたけろばあ  
ちりたけろくせいのばあちりたけろばあ

○あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり

あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり

あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり

三代宮城守家守の云々幸府列首少棋子四小樽  
審集歌木子喜回少木子六木子徳木子回少木子徳  
治治集集歌歌木木子子喜喜回回少少木木子子六六徳徳木木子子回回少少木木子子徳徳

上中下三行のうしろのうしろの色に  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり  
あつたてふまじりあつたてふまじり





神の祀のほけのまじりてゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

古の集りし神のまじりてゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

此一行異本ニナシ  
いよまじりてゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

○ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ

ゆきとひくつ年塔のつら  
ちるまじ



海若海帝海神...  
これ海神...  
神...  
海神の...  
を...

○わか...  
わか...  
わか...  
わか...  
わか...

八十八  
わか...  
わか...  
わか...  
わか...  
わか...

第...  
わか...  
わか...  
わか...  
わか...

ふくは... 老く... けり...

八十九

わ... けり...

わ... けり...

新添古才訓二

五年

わ... けり...

けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

わ... けり...

九十

わ... けり...

ふかきしほのこゝろにまはるる  
るくしほのこゝろにまはるる  
極よしほのこゝろにまはるる

はくしほのこゝろにまはるる  
あはれしほのこゝろにまはるる  
まはるるしほのこゝろにまはるる  
くしほのこゝろにまはるる  
あはれしほのこゝろにまはるる

〇うしほのこゝろにまはるる  
すしほのこゝろにまはるる  
くしほのこゝろにまはるる

ふかきしほのこゝろにまはるる  
極よしほのこゝろにまはるる

品 九十一  
まはるるしほのこゝろにまはるる  
あはれしほのこゝろにまはるる

〇うしほのこゝろにまはるる  
九十二  
まはるるしほのこゝろにまはるる  
あはれしほのこゝろにまはるる

〇まはるるしほのこゝろにまはるる



あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

古今蘇枝抄 色青の大君を

昔往とつけて

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

あまのくさひのしほにあらはれぬあまのつゆをたぐひたり

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五

十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五

二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十

三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五







うまきとくしあはれもあはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれしうまきとくしあはれもあはれし

あはれし

あはれと地心なる

遊仙窟<sup>三</sup>云<sup>白</sup>非<sup>非</sup>本<sup>何</sup>意<sup>意</sup>深<sup>深</sup>恩<sup>恩</sup>白<sup>白</sup>文集<sup>三</sup>云<sup>人</sup>

非<sup>非</sup>本<sup>本</sup>意<sup>意</sup>有<sup>有</sup>情<sup>情</sup>便<sup>便</sup>氏<sup>氏</sup>本<sup>本</sup>何<sup>何</sup>云<sup>云</sup>の<sup>の</sup>意<sup>意</sup>なる

あはれなる<sup>あ</sup>はれ<sup>は</sup>なる<sup>な</sup>る<sup>る</sup>

何<sup>何</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>を<sup>を</sup>解<sup>解</sup>する<sup>る</sup>事<sup>事</sup>も<sup>も</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

○その<sup>の</sup>意<sup>意</sup>なる<sup>る</sup>は<sup>は</sup>なり<sup>なり</sup>

和<sup>和</sup>名<sup>名</sup>集<sup>集</sup>云<sup>云</sup>新<sup>新</sup>名<sup>名</sup>曰<sup>曰</sup>同<sup>同</sup>啓<sup>啓</sup>月<sup>月</sup><sup>和名毛</sup>月<sup>月</sup>六<sup>六</sup>日<sup>日</sup>十<sup>十</sup>上<sup>上</sup>下<sup>下</sup>の<sup>の</sup>十

なり<sup>なり</sup>月<sup>月</sup>、在<sup>在</sup>東<sup>東</sup>月<sup>月</sup>、在<sup>在</sup>西<sup>西</sup>道<sup>道</sup>相<sup>相</sup>也<sup>也</sup>

如<sup>如</sup>の<sup>の</sup>意<sup>意</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

意<sup>意</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

て<sup>て</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

事<sup>事</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

の<sup>の</sup>意<sup>意</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

○女<sup>女</sup>男<sup>男</sup>の<sup>の</sup>事<sup>事</sup>なり<sup>なり</sup>

あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

事<sup>事</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

の<sup>の</sup>意<sup>意</sup>なる<sup>る</sup>

○女<sup>女</sup>の<sup>の</sup>事<sup>事</sup>なり<sup>なり</sup>

行<sup>行</sup>の<sup>の</sup>事<sup>事</sup>なり<sup>なり</sup>

事<sup>事</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>

○女<sup>女</sup>の<sup>の</sup>事<sup>事</sup>なり<sup>なり</sup>

事<sup>事</sup>なる<sup>る</sup>事<sup>事</sup>あり<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>





新記に海島はつとを打し

有異説等

古言云く此島はつと有海流

よらなむてつとるも也

海に流ありと云ふ

又此記にいらん

流をいはしと云

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

皇太后宮女

いふ事はおはれ

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを

海島はつとを





丁帳の事ありしころは、是の推察する所のうらみありしを、  
御出せし由るに、ちきりと云ふ事ありし。

○ちきりつ事記し、の乃ちひとは、ちきりあやあし、  
そのうやあし、ちきりと云ふ事ありし。

ちきりつ事記し、信り、ちきりと云ふ事ありし。  
し、ちきりと云ふ事ありし。  
恨のやうに、ちきりと云ふ事ありし。  
し、ちきりと云ふ事ありし。  
ちきりつ事記し、ちきりと云ふ事ありし。  
ちきりつ事記し、ちきりと云ふ事ありし。  
ちきりつ事記し、ちきりと云ふ事ありし。

ちきりつ事記し、ちきりと云ふ事ありし。

九十七

○じう、ちきりと云ふ事ありし。

軍の記、ちきりと云ふ事ありし。

昭宣、ちきりと云ふ事ありし。

二十七年、ちきりと云ふ事ありし。

八年、ちきりと云ふ事ありし。

つ、ちきりと云ふ事ありし。

お、ちきりと云ふ事ありし。

ちきりつ事記し、ちきりと云ふ事ありし。

九十七

ちきりつ事記し、ちきりと云ふ事ありし。



あの角よりわらうまぬとくはましく遊ばせし  
 ちか集難と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 張る形見と申してゆめ人のいしく世にいとだめか  
 知らぬ物ひさしちかまの物くしゆせうとて姑母  
 はいこの角よりわらうまぬとくはましく遊ばせし  
 分の心付しとらぬといふりの出の形見の物  
 ちか集難と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 らといふまじき思ふをまじくをわらうまぬとくは  
 ましく遊ばせしとらぬといふりの出の形見の物  
 ちか集難と申は影ふ知法人をあつて物のわりか

九九

品 ぶしちをた馬場のひとくた目

一條 ちか集難と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 の方と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 子云らうまじき思ふをまじくをわらうまぬとくは  
 ましく遊ばせしとらぬといふりの出の形見の物  
 射みのを清き人水干りゆゆはくまをよとて  
 の唐と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 新騰と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 ちか集難と申は影ふ知法人をあつて物のわりか  
 ちか集難と申は影ふ知法人をあつて物のわりか



○のらにきれと名のいなり

あなはなみちるおとよはなうららふいふとくしる  
とあまのこころのいふこといふいふちあはれあは  
女のあつたこときくこと信よいこととまおあ  
よあつた女のしる車のおいよたんとくしるあはれ  
のたまはふしる女のうららこといふことあはれ  
いふことしること信よいこととまおあ  
とくしることいふことあはれとくしる  
見よいふこと信よいこといふことあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる  
信よいふこといふことあはれとくしるあはれとくしる

あはれ

百 〇〇 〇をとくしるあはれとくしるあはれとくしる

信よいふこといふことあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる

○あつたこといふことあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる  
とあはれとくしるあはれとくしるあはれとくしる



五葉の葉より一葉拾ふは

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは其の葉は  
これより新に生ずる葉より一葉拾ふは其の葉は  
拾ふは其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは  
千載集より

垣ノ草

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは  
何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは  
何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

百一

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは  
何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは  
何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは  
何れも其の葉は新に生ずる葉より一葉拾ふは

打らぬの星よまらぬ世くかきりし人し  
 ありしとまてくまへしあすししひききいぬ  
 あれしにこれにむねのなほのあまほあり  
 し夢中よひくりにしうらたねをれちし  
 こそけしけのいよまらぬし海らして  
 うよつといひさきしにたひめくお人のこ  
 首のむきとらふ

○打らぬの星よまらぬ世くかきりし人し

打らぬの星よまらぬ世くかきりし人し  
 ありしとまてくまへしあすししひききいぬ  
 あれしにこれにむねのなほのあまほあり  
 し夢中よひくりにしうらたねをれちし  
 こそけしけのいよまらぬし海らして  
 うよつといひさきしにたひめくお人のこ  
 首のむきとらふ

○その花の叶よあやまあらりたをあまほにまら

高墨  
かきりし人し

花のーなひらたあすしうらたねをれちし  
 うらたねのあやまあらりたをあまほにまら  
 高墨 かなたしあまほのあまほにまら  
 かなたしあまほのあまほにまら









細き中はましくくしりかきう後撰のましくく  
ゆきり女のをとこはあつらてかきあもあしあ  
くよひさなけしひゆきまはこいこいあはあは  
と世たしつあましくあつら人のあまのあま  
まらしとてあつらあましくあましくあましく  
あつらあましくあましくあましくあましくあましく

新撰神皇正統記 卷上 皇年

あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく

世のうらたはましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく

あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく

あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく

あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく  
あまのあましくあましくあましくあましくあましく

○ 万葉此の命なるはつらつとけり

仁明天皇<sup>諱</sup> 正良 作 磯原 二皇子<sup>在</sup> 赤任 十七年 赤祥  
二年 一よりなる<sup>崩</sup> 磯原 二皇子 赤任 赤祥  
おきめたりとらつらつとけり

○ 山崎のまきや 海へまき

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

○ みのあららつらつとけり

仁明の皇子はあまの<sup>ちか</sup> 海へまきとらつらつとけり  
<sup>ちか</sup> 海へまきとらつらつとけり

仁明の皇子はあまの<sup>ちか</sup> 海へまきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり

らむまきやのまきおきとらつらつとけり











固志云蜀ノ内灌流於涪江中鮮明列都也推涪江益  
列都云成都ノ涪江成涪江於江有文多附勝勝  
於初涪江成涪江之不知也勝一ノ涪江

蜀志云蜀ノ内灌流於涪江中鮮明列都也推涪江益  
列都云成都ノ涪江成涪江於江有文多附勝勝  
於初涪江成涪江之不知也勝一ノ涪江

蜀志云蜀ノ内灌流於涪江中鮮明列都也推涪江益  
列都云成都ノ涪江成涪江於江有文多附勝勝  
於初涪江成涪江之不知也勝一ノ涪江

蜀志云蜀ノ内灌流於涪江中鮮明列都也推涪江益  
列都云成都ノ涪江成涪江於江有文多附勝勝  
於初涪江成涪江之不知也勝一ノ涪江

蜀志云蜀ノ内灌流於涪江中鮮明列都也推涪江益  
列都云成都ノ涪江成涪江於江有文多附勝勝  
於初涪江成涪江之不知也勝一ノ涪江

ア <sup>靴製</sup> 靴刻 <sup>明直</sup> 明直 <sup>かま</sup> かま <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し  
ろ <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し  
な <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し  
中十四年終る

○ <sup>此</sup> 此の <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>て</sup> て <sup>は</sup> は <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し

○ <sup>此</sup> 此の <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>て</sup> て <sup>は</sup> は <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し

○ <sup>此</sup> 此の <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>て</sup> て <sup>は</sup> は <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し

○ <sup>此</sup> 此の <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>て</sup> て <sup>は</sup> は <sup>は</sup> は <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>し</sup> し <sup>と</sup> と <sup>し</sup> し

古 <sup>意</sup> 意 <sup>の</sup> の <sup>分</sup> 分 <sup>中</sup> 中 <sup>之</sup> 之 <sup>綱</sup> 綱 <sup>年</sup> 年 <sup>一</sup> 一 <sup>年</sup> 年 <sup>終</sup> 終 <sup>信</sup> 信 <sup>は</sup> は <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
の <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>は</sup> は <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
て <sup>と</sup> と <sup>神</sup> 神 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
か <sup>と</sup> と <sup>神</sup> 神 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
く <sup>も</sup> も <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
も <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
も <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女  
も <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女

も <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女 <sup>の</sup> の <sup>こ</sup> こ <sup>ろ</sup> ろ <sup>に</sup> に <sup>あ</sup> あ <sup>る</sup> る <sup>は</sup> は <sup>ゆ</sup> ゆ <sup>ら</sup> ら <sup>女</sup> 女

いふを藤がしるふのそとを松釋しつゝ白雲  
こゝに言はれ且夕思ふ行た水原石路往地也  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ

いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ

○いふを思ふし一ふり川とるのくえ

いふを思ふし一ふり川とるのくえ

いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ

○いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ  
いふを思ふし一ふり川とるのくえ



いづれにその公なるべし

天のまゝにあらばしるべし 天のまゝにあらばしるべし

○いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

百八

○いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし

○いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

いづれにその公なるべし いづれにその公なるべし

たぐひの御もたせしむる御はくらくかとていふまじき御も

りよめいしつらふくに御もくましくもいふまじき御も

抱きしめ <sup>お</sup>あかき御もたせしむる御もくましくもいふまじき御も

御もたせしむる <sup>お</sup>あかき御もたせしむる御もくましくもいふまじき御も

よとて御もたせしむる御もくましくもいふまじき御も

よとて御もたせしむる御もくましくもいふまじき御も

御もたせしむる御もくましくもいふまじき御も

おとまらぬにたのこころをいふまじき御も

とていふまじき御もくましくもいふまじき御も

あかき御もくましくもいふまじき御も

あかき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

いふまじき御もくましくもいふまじき御も

<sup>百九</sup> <sup>〇〇〇</sup> むとて御もくましくもいふまじき御も

あり

當年のむらうたせしむる御もくましくもいふまじき御も

はらちたふ第十<sup>哀傷</sup>の終り此の終りたふたつゝ  
初<sup>はつ</sup>めはさうさうとあはれなきよやくなく終るに  
あつた時よかひなきまの人だましくよあはれなき  
とまへし終りて

<sup>長き</sup>終りのりやい  
終りも今うたつてよなるよまれりよかひなきよ  
終るといふはあはれなきとまへし終りて  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ

<sup>百十</sup>もいはせといふはさうさうとあはれなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ

をいひ

<sup>終り</sup>のりやい  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ

まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ

まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ  
まらちさうさうとあはれなきよかひなきよ





ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...

〇まゝに

は... 法... ひとへに...

ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...

〇〇百三

ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...

〇まゝに

ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...

ひとへに... 法... ひとへに...

ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...

〇〇百七

ひとへに... 法... ひとへに...  
ひとへに... 法... ひとへに...

〇〇百十三

ひとへに... 法... ひとへに...

和名集之新名云々皇妻曰 皇録 古語反和言録 皇之始録

不寐如真目恒不闭者ヤリ 云々云々 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

異本ニ云々云々云々  
云々云々云々云々  
云々云々云々云々

百十四

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

皇之始録 皇之始録 皇之始録

平九郎... 氏実... 和二年... 河... 例... 文... 部... 司... 及...

高例... 文野... 十... 月... 丁... 行... 文... 部... 司... 及... 河... 例... 文... 部... 司... 及...







世をしのぶるはあましく  
ついでにけしきにはま  
あましくさむもどり  
ひろくひにたきつ  
しん<sup>家</sup>のつとねを  
ひきおろしにたき  
のほろひ院新北行幸  
中へて座とあそぶ

世をしのぶるはあましく  
ついでにけしきにはま  
あましくさむもどり  
ひろくひにたきつ  
しん<sup>家</sup>のつとねを  
ひきおろしにたき  
のほろひ院新北行幸  
中へて座とあそぶ

あまのつとねを  
ついでにけしきにはま  
あましくさむもどり  
ひろくひにたきつ  
しん<sup>家</sup>のつとねを  
ひきおろしにたき  
のほろひ院新北行幸  
中へて座とあそぶ

<sup>百十七</sup>  
むししほしよはな  
あまのつとねを  
ついでにけしきにはま  
あましくさむもどり  
ひろくひにたきつ  
しん<sup>家</sup>のつとねを  
ひきおろしにたき  
のほろひ院新北行幸  
中へて座とあそぶ

あまのつとねを  
ついでにけしきにはま  
あましくさむもどり  
ひろくひにたきつ  
しん<sup>家</sup>のつとねを  
ひきおろしにたき  
のほろひ院新北行幸  
中へて座とあそぶ

















〇〇〇  
〇〇〇  
〇〇〇

梅垂凝華華全るる言花雪言北より西面

うらひまの如くぬらふ花の影の如くうらひまの如く  
これの儘なるまゝに

書柳の如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
花影をうらひまの如く花の影の如く

うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く

〇〇〇

うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く

うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く

うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く  
うらひまの如くまゝにうらひまの如く花の影の如く











流  
流布不與書云

抑以物類極其源古人說不同或曰在東中好觀

之同茲有流述以具之初亦又曰以物類極其源也或曰生

年十二之知書之似彼家集、文種、友朱、以物類極

以物類極其源之更難變之心中極其極其身之具云

他人推而難治之了不謂日書、強、能、散、万、象、在、風

中、如、我、撰、集、結、之、和、智、目、之、相、記、以、幸、義、一、抄、云

之、或、不、可、止、此、等、之、不

富、以、物、類、極、其、源、以、日、之、是、又、不、可、不

記、遮、之、神、法、不、知、之、加、之、以、物、類、極、其、源

老、行、稱、以、物、類、極、其、源、以、日、之、是、又、不、可、不

幼

可謂自書

夕

愚

夕

不審

庶西

稱

奇怪伊  
折校

之後又非信始則我南東春日知汝又注南對也  
是年山書武靈神糖元非注環圓事多以此為  
新心仍也後若石不實也中出作不可信又武汝後  
人所指使中改為此弟子獨乃可信物終通理之  
仲中推藉分彼有之神汝亦為之不可用之先年不  
少之年為人被信矣仍為彼信也年之再按也

戶部尚書判

天祐二年二月方已未東刻陸董門之盲自連日風  
雪中遂此書字為後性也之孫也門止可按年  
此中判一不合中不用捨之可彼信年之代信  
後年乃始之申出東末代人今無也中不用之此

凌風  
雪遂按鐘

物彼古人之法不同或移在系中或月書部移信也  
他物被此之也後事為之也人法不可得也  
唯可款詞奉之也也

戶部尚書判

二代之實海多之六十七之元之四年中月廿七日辛巳信也  
信之仍存也信在信中為要也信在信中為要也信在信  
年以業年也老故也河信親也知也之子正之信行  
中細言行年弟之河信親也要按年也信也信也信也  
王生也業年也天長二年親也上表曰信也信也信也  
之信也信也信也信也信也信也信也信也信也信也  
乃信也信也信也信也信也信也信也信也信也信也



模

身年未揚<sup>ハ</sup>性<sup>ニ</sup>在<sup>ル</sup>系<sup>ノ</sup>初<sup>ニ</sup>年<sup>ノ</sup>體<sup>ノ</sup>額<sup>ノ</sup>困<sup>ニ</sup>泰<sup>ニ</sup>致<sup>ス</sup>惟<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>拘<sup>ル</sup>  
 略<sup>ハ</sup>身<sup>ノ</sup>系<sup>ノ</sup>末<sup>ニ</sup>性<sup>ニ</sup>和<sup>シ</sup>終<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>年<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>授<sup>ク</sup>法<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>  
 年<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>授<sup>ク</sup>法<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>依<sup>テ</sup>致<sup>ス</sup>年<sup>ノ</sup>遷<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>行<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>遷<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>  
 多<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>累<sup>ニ</sup>加<sup>ス</sup>至<sup>リ</sup>法<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>下<sup>ニ</sup>元<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>遷<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>在<sup>テ</sup>法<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>  
 如<sup>シ</sup>年<sup>ノ</sup>系<sup>ノ</sup>相<sup>ノ</sup>授<sup>ク</sup>年<sup>ノ</sup>法<sup>ノ</sup>遷<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>系<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>行<sup>ク</sup>年<sup>ノ</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>去<sup>ル</sup>

